

アジサイの植栽整備について

飯塚 康博・林 良之

平成9年6月、アジサイの常設展示を充実させるため、鉢展示用に栽培していた品種のうち57品種106株を日本庭園周辺に植栽し、露地で管理することにした。

その植栽状況は、図、表のとおりである。なお、植栽直後は水枯れを起こしやすいので、株元にバーク堆肥を敷き、8月中旬から9月上旬にかけて2～3日に1回かん水した。

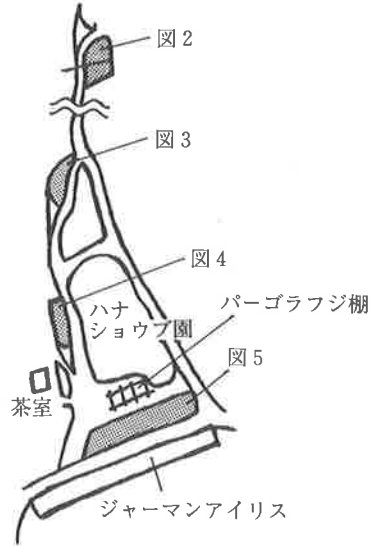


図1. アジサイ植栽位置図

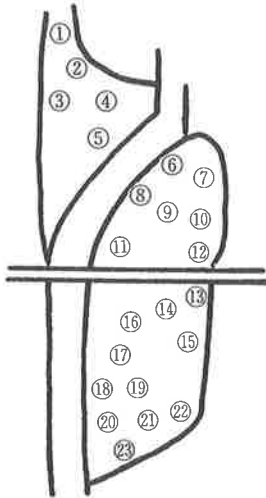


図2. アジサイ植栽図(1)

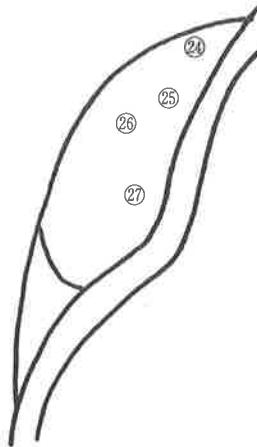


図3. アジサイ植栽図(2)

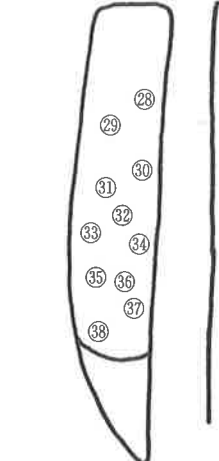


図4. アジサイ植栽図(3)

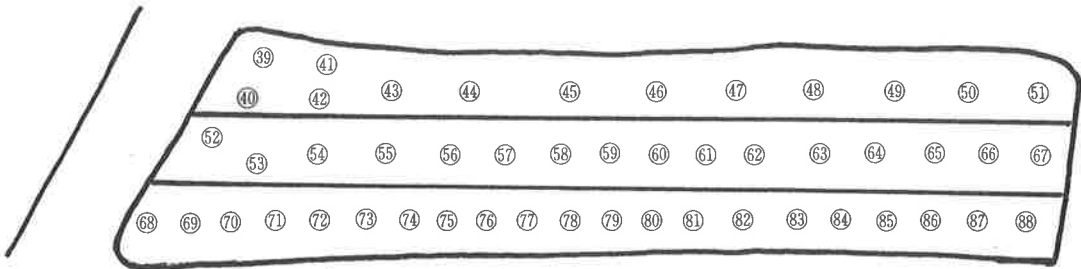


図5. アジサイ植栽図(4)

アジサイ植栽品種

① 清澄沢あじさい	⑬ 虹	⑲ 白紗	⑳ フラウサヨコ	㉕ ブリマ	㉙ サンセット
② エゾアジサイ	⑭ 八重咲アマチャ	㉑ 伊予餅	㉖ フラウヨシミ	㉖ ドモトイ	㉚ アルボレスケンス
③ プレジオーサ	⑮ アマガミアチャ	㉒ 伊予絞り	㉗ ベネラクス	㉗ 巨大八重	㉛ 石化八重
④ くれない	⑯ マイコアジサイ	㉓ 大缸	㉘ ピンクシャワー	㉘ マリンブルー	㉜ マリエシー
⑤ 虹	⑰ オオベニガクアジサイ	㉔ 舞妓	㉙ シロガクアジサイ	㉙ インマキュラータ	㉝ キングジョージ
⑥ 八重咲アマチャ	㉕ 伊豆の華	㉕ オオベニガクアジサイ	㉚ ピンクムーン	㉚ マダム・E・Mイェール	㉞ トリコロール
⑦ アマガミアチャ	㉖ 城ヶ崎	㉖ フラウノリコ	㉛ ボルセルフロット	㉛ シーフォーム	㉟ ミセスクミコ
⑧ マイコアジサイ	㉗ ナデシコガクアジサイ	㉗ センセーション	㉜ グライアス	㉜ ジューンブライド	㊱ クロジアアジサイ
⑨ 緑星	㉘ フラウノリコ	㉘ クリスタル	㉜ ハイリッヒザイデル	㉜ ヨーロッパ	㊱ フラウサクラ
⑩ クロヒメアジサイ	㉙ ベーチ姫	㉙ ピーチ姫	㉝ ザクリスマス	㉝ ホワイトウェーブ	㊱ ブルーバード
⑪ 江冠雪	㉚ フラウカツコ	㉚ フラウカツコ	㉞ ペイチー	㉞ オオベニガクアジサイ	㊱ フラウレイコ
⑫ 青海	㉛ フラウヨシコ	㉛ フラウヨシコ	㉞ 十二単衣	㉞ インターメディア	㊱ フラウブルーレイコ
⑬ 桃色ヤマアジサイ	㉜ マスジャ	㉜ マスジャ	㉟ ウズアジサイ	㉟ 隅田の花火	㊱ フラウキヌエ
⑭ 肥後絞り	㉝ フラウハルコ	㉝ フラウハルコ	㊱ ブルーウェーブ	㊱ 八重カシワバアジサイ	㊱ フラウマチコ
⑮ 伊予の五月雨	㉞ Marville Sanguinea	㉞ Marville Sanguinea	㊱ ミスヘップバーン	㊱ ララルネ	㊱ フラウトシコ
⑯ コモチシチダンカ			㊱ アルボレスケンス グランドアフロウ	㊱ カシワバアジサイ	㊱ フラウマリコ
⑰ 白富士			㊱ ファザーン	㊱ アルボレスケンス アノベル	
⑱ 剣の舞			㊱ アルトナ	㊱ タマアジサイ	

*既植のものには
○印を付した

ネパールから導入したイワタバコ科植物について

平井健一郎・中山 長秀*

1997年5月28日から6月6日まで、ネパールのカトマンズ(Kathmandu)とポカラ(Pokhara)を訪問した。植物を観察したのは、ポカラ北方に広がるアンナプルナ山群(Annapurna Himal)の、ナヤプル(Nayapur)からバグルン(Baglung)までであった。この時期、ネパールは乾季から雨季への移行期間にあたり、ポカラの街では、リンコスティリスやジャカランダが満開で、アンナプルナ山群では、白花のバラやプリムラ、インパティエンス、テンナンショウの仲間、ホヤ、デンドロビウムなどが咲いており、わずかながらシャクナゲが最後の花を付けていた。球根性ペゴニアも葉を展開し始めていた。特にイワタバコ科植物を注意深く観察したが、地生種の多くは出芽直後の状態であった。このような種を含め、数種を採集、導入したので記録する。

今回報告するイワタバコ科植物の内、*Didymocarpus leucocalyx* はカトマンズ南東部、ゴダワリ(Godawari)のプルチャーキ山(Phu-

* (財)広島市林業振興公社 森林公園

Ichoki)で、その他の種はアンナプルナ山群の標高約1,000~2,800m付近から採集したものである。また、これらのイワタバコ科植物をゴダワリ植物園のマラ氏に同定して頂いたが、*Chirita pumila*については、文献による説明とやや異なった点が見られ、別種の可能性があることから、その学名は参考として括弧内に記すこととした。

これらのイワタバコ科植物の導入・同定並びに栽培・管理について、貴重な御意見・御助言をいただいたマラ氏に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

ディディモカルプス・レウコカリクス

Didymocarpus leucocalyx C.B.Clarke

ゴダワリ、プルチャーキ山の標高約2,500m付近で、苔むした岩場の斜面に自生していた。現地ではクムクム(Kum Kum)と呼ばれ、展



Didymocarpus leucocalyx